もう一度みんなで考えよう、地球の明日。

環境省

エコジン

VOLUME.62

2017年・2018年
12・1月号

めざせ！

特集

世界自然遺産

WORLD NATURAL HERITAGE in japan

［エコジン・インタビュー］
小島よしお

［第2特集］
国立公園
満喫プロジェクト

エコジン

2017年12月・2018年1月号

デザイン／ナオイデザイン室　Cover写真／fukuda toyofumi/Nature Production/amanaimages

奄美大島と徳之島のみに生息している固有種、アマミノクロウサギ。環境省第4次レッドリストでは、野生での絶滅の危険性が高い「絶滅危惧IB類」に指定されている

エコジンとは、“エコロジー+人”、“エコロジー+マガジン”のこと。
環境のことを考える人が一人でも多くなることを目指す、
環境省発信のエコ・マガジンです。

contents

06 特集
めざせ！世界自然遺産

03 エコジン・インタビュー
小島よしお
「グアム、サイパン、ハワイも素晴らしいけど、沖縄の海の美しさにはどこも敵わないような気がします。」

16 エコロ塾
国立公園満喫プロジェクト

20 challenge! わたしたちのeco宣言 FROM INSTITUTE
一般財団法人 日本気象協会

22 国立公園まんきつ旅 Vol.04
十和田八幡平国立公園

24 地球に優しいのはどっち?? COOL CHOICE!／BAD CHOICE!
ウォームビズ

エコジンNEWS

12月は「地球温暖化防止月間」です

WARM BIZ

1997年12月に京都で開催された気候変動枠組条約第3回締約国会議（COP3）を契機として、1998年度から12月を「地球温暖化防止月間」と定め、国民、事業者、行政が一体となって普及啓発事業を始めとするさまざまな取り組み※を行うことにより、地球温暖化防止に向けた国民運動の発展を図ることとしております。

※**今年度の取り組み**：平成29年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰、WARM BIZ（ウォームビズ）の推進、「エコプロ2017」への出展

http://www.env.go.jp/press/104808.html

12月は「大気汚染防止推進月間」です

12月は自動車交通量の増加、ビルや家庭の暖房の他、気象条件の影響などにより、大気汚染物質濃度が高くなる傾向があります。環境省では、毎年12月を「大気汚染防止推進月間」として、きれいな空を守ることの大切さを呼びかけています。皆さんも、徒歩や自転車、公共交通機関の利用を心がけたり、重ね着をして暖房の使用を控えるなど、大気汚染の防止について考えてみませんか。

http://www.env.go.jp/air/osen/gekkan/

※本誌の掲載文のうち、執筆者の意見にあたる部分については、環境省の見解と異なることがあります

小島よしお

海パン一枚で体を張る姿が印象的な、芸人の小島よしおさん。
沖縄出身だから海水パンツにいきついたのかと思いきや、
実は大人になるまで、沖縄のことはあまり知らなかったそうです。
そして年を経た今、自分のルーツである琉球の良さを改めて
再確認しているのだと言う小島さんに、これまでに見て感じた
琉球諸島の自然や文化の面白さについて教えてもらいました。

写真／かくたみほ

ecojin interview
YOSHIO KOJIMA

グアム、サイパン、ハワイも
素晴らしいけど、沖縄の海の美しさには
どこも敵わないような気がします。

ecojin interview
YOSHIO KOJIMA

豊かな自然がある素晴らしさは
大人が一番実感できるもの。
だから大人一人ひとりが
ちゃんと守らないといけませんよね。

沖縄出身の小島よしおさん——と言っても、生まれた場所が母親の故郷の久米島(くめじま)というだけで、実際のところは千葉育ちというのが真相。沖縄に住んだことはないけれど、小学生の頃までは、毎年夏休みに島に行っては海で泳いだり、釣りをしたりしていたのだとか。

「小さい頃は沖縄の良さをわかっていなかったですね。久米島は特に何にも無いですから（笑）。大人になって、仕事をしてからの方が島の良さをわかるようになりました。今、親が久米島に住んでいるので、里帰りを理由に沖縄に行けてラッキーだと思います。人が多くてストレスもたまりがちな都市生活を離れて沖縄に行けば、気持ちがホッと安らいで、エネルギーを充電できる気がします」

最近では、ウミガメと一緒に泳げると噂を聞いて、帰郷途中に慶良間(けらま)諸島の阿嘉島(あかしま)へ。

「シュノーケリングで行ける、そんなに深くない場所で、簡単に数匹ものウミガメと遭遇できる海なんて、他にあまり無いんじゃないですか？　しかも全く人間を怖がらないんですよ。仕事でサイパンやグアム、ハワイの海でも潜りましたけれど、そのどこよりもきれいで、生き物もたくさんいて驚きました」

透明度の高い海、色とりどりのサンゴや熱帯魚、一緒に泳いでくれるウミガメなど、世界自然遺産に登録されるに値する自然の豊かさが確かにある、と小島さん。

「陸には野生の鹿がウロウロしているし、夜は浜辺にヤドカリがたくさんいてびっくりするほど。阿嘉島は、世界自然遺産登録予定エリア外ですけれど、他の島にも本州周辺では見られない生態系が広がっているんだろうなって容易に想像できますよね。また、琉球諸島とひとくくりにされることがありますけれど、島によって文化も全然違うんですよ。久米島と宮古島の人が方言で喋ったら、意味が全く通じないんだと聞いたことがあります。食べ物

だって独特ですよね。久米島はクルマエビと海ぶどうの出荷量が全国トップクラスなんですよ。『ダッピエビ』って知ってますか？　ソフトシェルクラブのエビ版で、脱皮をしたばかりのクルマエビなんですけれど、頭から全部食べられて本当においしいです。海ぶどうも食べたことがない人は驚くでしょうね。僕の奥さんも大好きでハマッてますよ。世界自然遺産への登録は、多くの人に、いろいろな角度から島に興味を持ってもらうきっかけになるかもしれませんね」

　小島さん自身、世界自然遺産登録予定地のうち、足を踏み入れたことがあるのは、テレビ番組の収録で海釣りをしに行った奄美大島と、趣味の自転車の大会に参加して、大雨の中を走行した沖縄島北部くらい。

「どうしても久米島ばかりに行ってしまうので、そんなに他の島を知らないんですよね。しかも両方とも景色を楽しむ余裕なんてなかったので、いつかもう一度ゆっくり行ってみたいです。登録されたらきっと、島を訪れる人が増えるんでしょうね。島に経済効果がもたらされるのは良いことかもしれないけれど、自然を守るためには観光客一人ひとりがモラルをしっかり持たないといけないだろうと思います」

　豊かな自然以外“何もない”ことを守るのは、実は並大抵なことではないことを知っている。「久米島の人でも、観光客をたくさん呼べば経済的に潤うからゴルフ場があれば、なんて言う人もいます。でもやっぱりそれは抑えているんですよね。“何もない”ことの良さを、訪れた人がSNSなどを使って少しずつでも発信していくことも大事かもしれません。その一人として僕も魅力を伝えていきたいと思います」。

小島よしお　1980年生まれ、沖縄県出身。母親が久米島出身で、島で現在飲食店を営んでいる。小さい頃から体を動かすことが好きで、趣味はマラソンと筋トレ。「ジュニアアスリートフードマイスター」や「ダイエットインストラクター」の資格を持ち、食事とトレーニングにも見識が深い。現在子どもたちからの絶大なる支持を得て、再ブレイク中。2016年に結婚。

WORLD NATURAL HERITAGE in JAPAN

世界で唯一の価値を有する
自然地域を人類全体のための遺産として保護・保存し、
国際的に維持管理するための仕組み「世界自然遺産」。
いま、日本で5番目の世界自然遺産登録を目指して
「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」地域が
名乗りを上げています。
特徴的な生態系と豊かな
生物多様性を持つこの4島の魅力を、
各島をよく知る方々からの
推薦コメントとともにお伝えします。

※世界自然遺産の推薦に際しては、島全体が対象となるのではなく、「推薦地」と推薦する資産の効果的な保護を目的とした「緩衝地帯」を設けます。
P8以降の各島に添えたMAP上では、この「推薦地」と「緩衝地帯」を示しています。

特集

世界自然遺産をめざせ！

1. 奄美大島
Amami-Oshima Island
2. 徳之島
Tokunoshima Island
3. 沖縄島北部
The Northern part of Okinawa Island
4. 西表島
Iriomote Island

然遺産

1

{ Amami-Oshima Island }

奄美大島

海と森に育まれた希少動植物の楽園

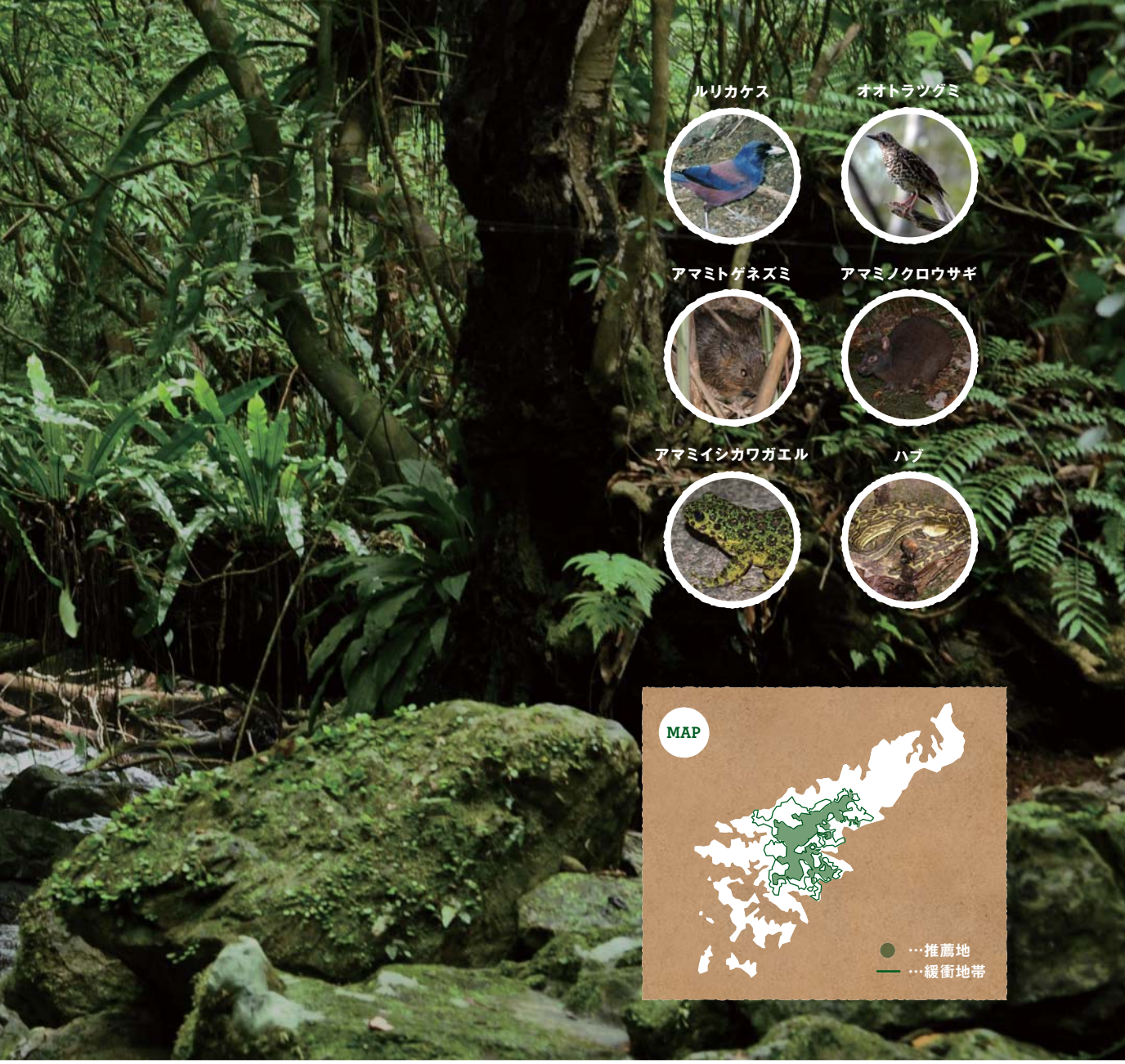
鹿児島と沖縄島のほぼ中間に位置し、国内の島としては沖縄本島、佐渡島に次ぐ面積を誇る奄美大島。島内には広大な亜熱帯の森が広がり、アマミノクロウサギやルリカケスなど、固有種が数多く生息しています。

RECOMMENDER

中国四国地方環境事務所
野生生物課 課長補佐
阿部慎太郎さん

\ Recommend Comment /

私は、1988年に奄美大島に来て以来マングースの調査をし、その後は自然保護官として「奄美マングースバスターズ」結成など防除事業の立ち上げにも携わりました。無謀と言われたマングースの完全排除も、関係者のたゆまぬ努力で視野に入ってきました。2000年代、マングースの分布域からはアマミノクロウサ



ギなど固有種が姿を消していましたが、近年では防除の効果により世界遺産の推薦価値でもある固有種の回復という大きな成果が見られています。しかし、ゴールは奄美が世界自然遺産になることではありません。世界に誇る素晴らしい自然が、奄美に住む人、奄美を訪れる人とうまく共存し続けることこそが大切なのだと思います。

OUR EFFORTS

マングース対策

「特定外来生物」であるマングースは、1979年にハブなどの駆除を目的に奄美大島に放されましたが、実際には効果は得られず、さまざまな在来種が食べられてしまいました。環境省では、マングースを完全に排除し、島独自の生態系を回復させるため、捕獲などの防除事業を進めています。約20年の取り組みの結果、一時は約1万頭にまで増加したとされるマングースの数は、50頭以下にまで減少したと推定されています。

(写真)「奄美マングースバスターズ」の活動では、マングースの完全排除を目指し、島内に約3万個のわなを設置している

写真提供／奄美野生生物保護センター

2

{ Tokunoshima Island }

徳之島

小さな島に息づく貴重な生き物たち

奄美群島に属する徳之島。井之川岳、天城岳などからなる山岳地帯の森には、トクノシマトゲネズミやオビトカゲモドキなど、希少でユニークな島の固有種がひっそりと息づいています。

RECOMMENDER

NPO法人 徳之島虹の会
事務局長
美延睦美（みのべ）さん

\ Recommend Comment /

徳之島の遺産推薦地は面積が小さく、有人島にある世界自然遺産としては、世界最小になるのではないかと思います。そんな小さな島の小さな遺産推薦地は、すぐそばに3万年前の旧石器時代から続く人々の暮らしがあり、自然と人の営みが長い間共存共栄してきました。独特な島の成り立ちや気候、珍しく面白い固有の動植物をはじめとする豊富な生態系、どれもが特異であることはもちろん、今もなお変わらずその環境を保っていることも世界に誇れると思います。今、島の宝から世界の宝になろうとしている豊かで美しい自然は、私たち島民の1000年先の未来にもつなぎたい希望です。

MAP

…推薦地
…緩衝地帯

トクノシマトゲネズミ

イボイモリ

オビトカゲモドキ

INTERVIEW

世界自然遺産登録に向けて

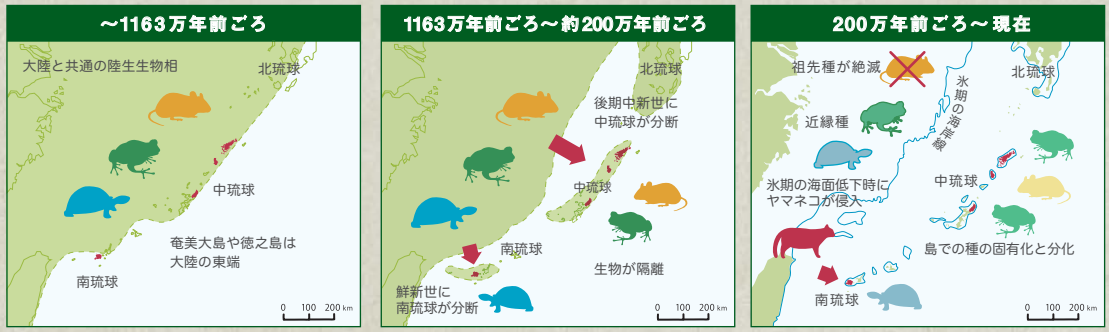
環境省自然環境局 自然環境計画課 世界自然遺産専門官 **松永 暁道**さん

奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島の世界自然遺産としての価値は、数百万年スケールの島の成り立ちに由来します。この地域は、かつては大陸の一部でしたが、地殻変動によって大陸から分離しました。その際、もともと大陸にいた生物が取り残されることになりました。その後も分離や結合を繰り返しながら小さな島々が形成されていきますが、その過程で島ごとに隔離された種が独自の進化を遂げました。例えば、アマミノクロウサギは、約1000万年前に他のグループと分かれた、遺存固有種（大陸には近縁種が存在しない固有種）です。

また、ハナサキガエルの仲間は、島への隔離と侵入の結果、これらの島で4種にも種分化しています。これらはほんの一例であり、大陸から島が分離・結合する地史を背景として、独自の進化が起こったプロセスをさまざまな種で見ることができます。この点が、推薦の大きな価値といえます。

また、この地域には原生的な自然も残ってはいるものの、推薦地のすぐ近くに、人々の生活の場が存在します。生き物が独自の進化を遂げたように、各島でその自然を土台とした固有の文化が育まれていることも特徴です。自然と人との共生の形も大きな魅力といえます。

この地域が、小笠原諸島、知床と共に世界自然遺産の候補地になったのは2003年のことですが、その時点では西表島を除いて国立公園にも指定されていませんでした。地域の生活・文化とも密接に関わる貴重な自然を、後世に残していくにはどうしたらいいのか。国立公園や世界遺産を見据えつつも、地域の自然のあり方を関係者で真剣に議論してきた積み重ねが現在につながっています。そして今、地域の人からは、遺産登録はゴールではなく、スタートだという声が多く聞こえてきています。まさにこの言葉の通り、世界に誇る地域の宝を次世代へと引き継いでいけるよう、関係者みんなでより一層協力していくことが求められています。



イラスト／原田康平

3

{ The Northern Part of Okinawa Island }

沖縄島北部

世界でも数少ない亜熱帯照葉樹林の森

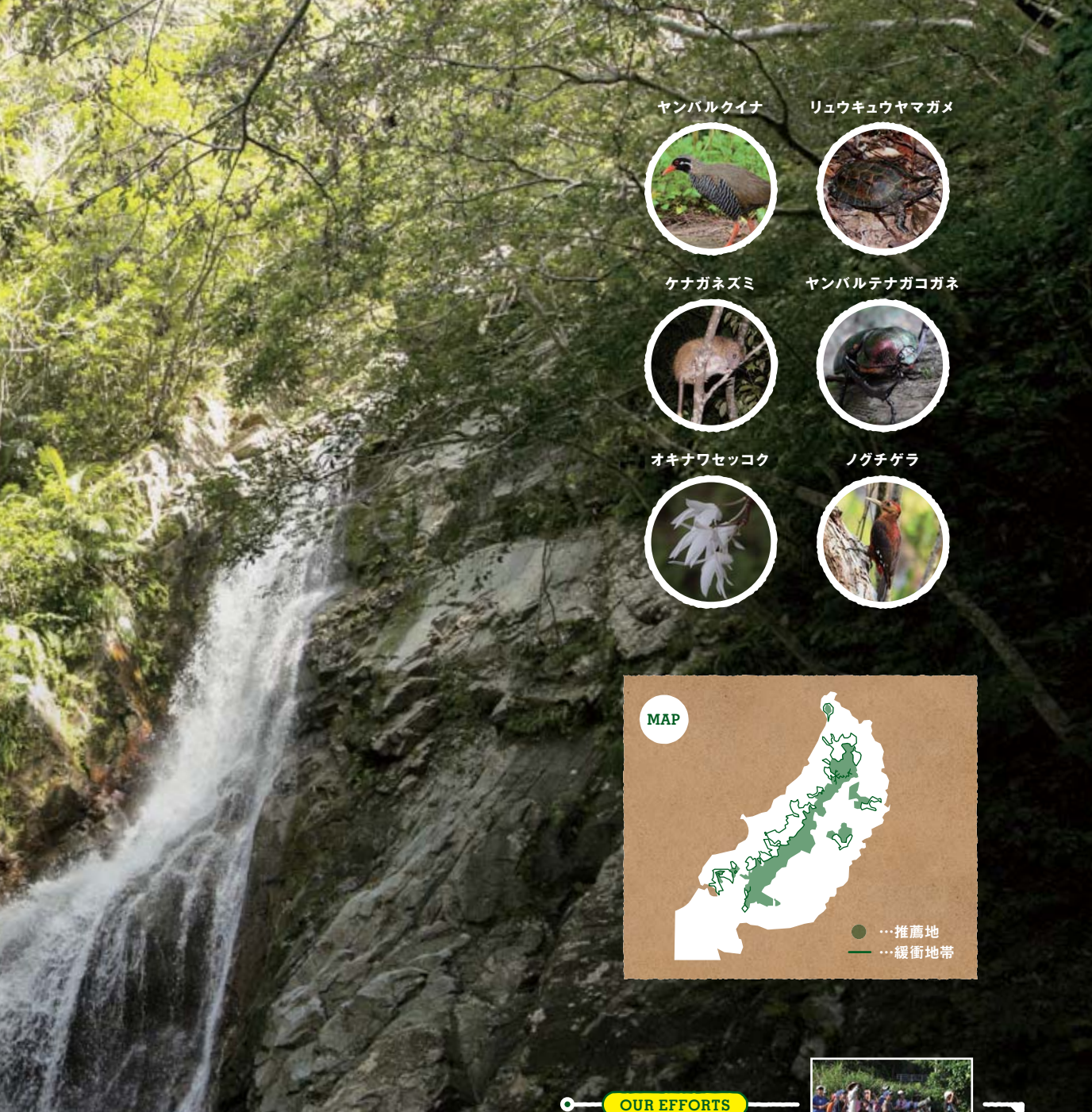
国頭村（くにがみそん）、大宜味村（おおぎみそん）、東村からなる沖縄島北部は、山々や森が広がる「山原＝やんばる」地域として知られます。国内最大級の豊かな照葉樹林、ヤンバルクイナをはじめとする希少動物など、ここにしかない自然の宝庫です。

RECOMMENDER

NPO法人
やんばる舎 理事
市田則孝さん

\ Recommend Comment /

沖縄島北部に広がる「やんばる」地域は、照葉樹林のイタジイ(スダジイの沖縄での呼び名)がおよそ7割を占める自然の宝庫として知られます。しかし、うっそうとした森に足を踏み入れなくても、人々が暮らす里山や、観光客が訪れる宿泊施設の周りでも希少な動植物を数多く見つけることができるのもこの地域の特色で



ヤンバルクイナ

リュウキュウヤマガメ

ケナガネズミ

ヤンバルテナガコガネ

オキナワセッコク

ノグチゲラ

す。固有種であるヤンバルクイナも里に現れることがあるため、運が良ければ間近に見ることができます。動植物についての知識を得ることももちろん大事ですが、何よりもまずその姿を実際に見て、美しいと感じる気持ちが大切です。やんばるを訪れてもらえば、きっとそれが実感できることと思います。

OUR EFFORTS

環境教育

「やんばる舎」は、沖縄島北部やんばる地域の豊かな自然と文化を継承、活用するため2013年に設立されました。活動は多岐にわたりますが、地域の小学生を対象とした環境教育も重要な活動の一つ。生き物や自然を観察し、実際に触れることで、生物多様性の上に自分たちの暮らしや文化があることを実感してもらう活動は、子どもたちの自然に対する意識を変え、地域に対する愛着を深めることにもつながっています。

(写真)小学校の児童たちと、蝶や鳥の観察や、蝶が食べる草の栽培など、生き物と触れ合う形での環境教育を行っている

4

{ Iriomote Island }

西表島

原生的な森林が広がる秘境の島

沖縄本島から南西400kmに位置する八重山諸島の一つ、西表島。島のおよそ90%が亜熱帯の自然林に覆われ、国内最大級のマングローブの群生など原生的な自然が残ります。島の新固有種イリオモテヤマネコの保護も重視されています。

RECOMMENDER

竹富町役場
政策推進課 課長
通事（とうじ）太一郎さん

\ Recommend Comment /

島の約90%が亜熱帯の森に覆われた西表島は、今回の世界自然遺産登録を目指す4島の中でも推薦地としては最も範囲が広い点が特徴です。島民の生活エリアと自然環境が一体化しているため、お互いが影響し合いながら生きています。多様かつ繊細な自然とそこで暮らす私たちがどう付き合っていくのかも課題で

す。島の象徴的な生き物であるイリオモテヤマネコは行動範囲が広く、人間の生活エリアにも重なっているため、人々の暮らしと生き物の保護の両立が大切になります。世界自然遺産登録に向けて、専門知識を持つガイドの養成なども進めながら「自然とのより良い付き合い方」を模索していきたいと考えています。

OUR EFFORTS

ヤマネコ保護

竹富町では、島の新固有種イリオモテヤマネコ保護のため、「ねこ飼養条例」を公布し、飼い猫にマイクロチップを埋め込むことや島内に猫を持ち込む際の感染症検査などが義務付けられています。また、イリオモテヤマネコは、西表島の広範囲に生息しているため島の外周の一部に伸びる幹線道路を横切ることも多く、県道を横断する際に交通事故も多発。関係機関が連携し、ドライバーに注意喚起を促す看板設置などの対策を講じています。

(写真)イリオモテヤマネコの生息を脅かす交通事故を減らすため、ドライバーに注意を呼びかける道路標識

イリオモテヤマネコ

オオハナサキガエル

ヤエヤマセマルハコガメ

カンムリワシ

コガタハナサキガエル

キシノウエトカゲ

エコに関する旬な話題を勉強しよう！

第2特集

エコロ塾

〔 今月の授業 〕

国立公園満喫プロジェクト

知ってみよう

日本の国立公園は、豊かな自然はもちろん、自然に育まれた「伝統文化」や「食」など、地元特有の「人々の暮らし」にふれることができる点が特徴です。環境省では、日本の国立公園の魅力をさらに向上し、訪日外国人利用者を増やすための取り組みを行っています。

基礎編

1時間目 「国立公園満喫プロジェクト」って？

「国立公園満喫プロジェクト」は、日本の国立公園を“世界水準のナショナルパーク”としてブランド化するための取り組みです。まず全国8カ所の国立公園（右図）を先行モデルとして、各公園での取り組み方針を定めた「ステップアッププログラム2020」を策定。今後はこのプログラムに基づき、「自然の魅力を最大限引き出す」「公園区域内の大胆な利用の拡大」などの取り組みを、環境省、地元自治体や地元事業者、各省との連携により進める予定です。この取り組みを全国に展開することによって、2020年までに訪日外国人の利用者を546万人（2016年時点）から1,000万人に増やすことを目指します。

2時間目

日本の国立公園は、どう変わっていくの？

近年、日本の国立公園は自然保護の観点から注目されてきました。保護に加えて、もう一つの役割である利用促進の観点から、今後は、日本が世界に誇る国立公園の「美しい景観」と国立公園に「滞在する魅力」を世界に向けて発信し、国内外からの利用者拡大を図ることで、人々の自然環境保全への理解を深めるとともに、地域の活性化につなげていきます。

楽しむ

伊勢志摩国立公園では、入り江と岬が点在する優美な景観を望む展望台に、民間事業者が経営する「天空カフェテラス」を整備し、リアス海岸が続く英虞湾の景観を楽しめるスポットにします。また、誘客促進のための現地視察ツアーである「ファムトリップ」を実施。日光国立公園を皮切りに、全国８公園において受け入れ体制や各種コンテンツの充実を目指し、海外に強いエージェントやメディアなどを招いて世界の人々が国立公園に期待するニーズを調査しています。

← 伊勢志摩国立公園内の、「天空カフェテラス」。英虞湾の景色が一望できる

→ 日光国立公園で、ファムトリップ本番前に行った現地での検討会の様子

守る

慶良間諸島国立公園の沖縄県座間味村では、海・空路で入村する人を対象に、1回の入村につき1人100円の「美ら島税」を課税。税収は、ウミガメの保護活動やオニヒトデ駆除、海岸の清掃・美化活動、観光施設の維持整備などに充てられます。また、大山隠岐国立公園では、地元飲食店舗「さんべバーガー」の協力で、売り上げの一部（バーガー1個につき1円）を寄付してもらい、三瓶山の美しい草原景観を保全するための活動に役立てます。

← 「ケラマブルー」と称される、澄んだ美しい海に囲まれた慶良間諸島国立公園

→ （左）三瓶山の景観維持のため伐採した木材を薪にして販売（右）三瓶山のふもとで販売される、地元島根県の食材を使ったさんべバーガー

PRする

環境省では、世界水準の「ナショナルパーク」としてのブランド化を図るため、国立公園の統一マークとブランドスローガン「その自然には、物語がある。」を作成しました。また、JR東日本の新幹線車内誌『トランヴェール』で国立公園の特集記事を掲載（2017年6月号）、日本旅行のツアー商品「知るたびニッポン」で国立公園をテーマとした旅行商品を企画・販売するなど、オフィシャルパートナーとの連携によって国立公園の魅力をPRしています。

National Parks of Japan

↑ 日本の国立公園のブランド力向上のため作成された、統一ロゴマーク

↓ 旅先の選択肢の一つとしてもらうため、フリーペーパーなどで国立公園の特集を設けている

日本の国立公園が秘める観光地としてのポテンシャルとは？

今月の講師

デービッド・アトキンソンさん

小西美術工藝社代表取締役社長
「国立公園満喫プロジェクト
有識者会議」メンバー

私は、28年前に証券会社のアナリストとして来日し、日本に住み始めました。いまでは縁あって、日光東照宮をはじめとした国宝や重要文化財の補修を行う会社の社長を務めています。

私が「観光」に関心をもつようになったのは、仕事を通じて日本の国宝・重要文化財の現実を知ったことがきっかけでした。

日本の文化財は、政府からの補助金を使って補修が行われています。政府の財政事情を考えれば、文化財を「保護すべきもの」から「稼げる観光資源」に変えていくことが求められています。減少する日本人に代わって文化財を訪れる外国人を増やし、その収入で補修費用をまかなっていく……そうすることではじめて、世界に誇る“日本の宝”を、次の世代に受け継ぐことができるのではないか。そんな問題意識を持ったのです。

日本の国立公園も、文化財と同じ問題を抱えています。「世界でも稀に見る多様性」を持つ日本の自然は、観光資源として大きな可能性を秘めています。その可能性を最大限に活かすことによって、美しい景観や貴重な自然環境を守り続けることができるのです。

では、日本の国立公園を「稼げる観光資源」にするためには、何が必要なのでしょうか？
その1つが「多様なニーズに応える体験型アクティビティを整備する」ことです。自然の楽しみ方は人によってさまざまです。キャンプだけではなく、トレッキングをしたいという人もいるでしょう。川や湖がある国立公園なら、釣りやカヤック、ラフティングを楽しみたいという人もいます。北海道などの国立公園であれば、スキーやスノートレッキングを楽しむこともできるでしょう。

十和田八幡平国立公園では、雪のある時期にスノートレッキングを開催。参加者はスノーシューを装着して、周辺の森など、雪景色の中を散策することができる

このような、自然の中で行う体験型アクティビティには、日本の観光における「主役」となり

うる重要なポイントがあります。それは「時間がかかる」ということです。スキーやキャンプは1日がかりですし、トレッキングや川下りも、どんなに短くても半日はかかります。さらに、そのアクティビティが本当に好きな人は数週間にわたって滞在することも珍しくありません。つまり、滞在によって観光消費の約半分を占める食事や宿泊が増え、より多くのお金を落としてもらうことができるのです。

慶良間諸島国立公園では、透明度の高い海を眺めることのできるカヤックや、スタンドアップパドルなど、沖縄ならではのビーチアクティビティが楽しめる

日本における体験型アクティビティ整備の成功例が、北海道のニセコです。古くからスキーと温泉の街として親しまれてきたニセコは、2000年以降、良質なパウダースノーを求めるオーストラリア人が訪れるようになり、急速に整備が進みました。今では欧米やアジアからも多くのスキー客が訪れ、高級ホテルや別荘、コンドミニアムが建ち並んでいます。

ニセコの成功例が表しているのは、「観光地としての魅力は“あるもの”ではなく“つくるもの”である」ということです。ニセコにもともとあったのは、ただの「山」や「雪」にすぎません。その環境がスキーに最適だと気づいた人たちがSNSなどで情報発信することで、その魅力は世界中に広まりました。そして、彼らが楽しく快適に過ごすための設備が整備されたことで、ニセコは「世界有数のスキーリゾート」へと変貌を遂げたのです。

日本の国立公園には、自然の風景を楽しむという「客の視点」を踏まえた整備が不足しています。見晴らしのいい高台にゆったりくつろげるカフェをつくる、自然の中を歩きながら植物や動物、地形などについてわかりやすく説明するガイドを育成する、「訪れる側の視点」で情報発信をする……など、工夫すべき点は山ほどあります。

観光大国になるための4条件は「自然・気候・文化・食」だと言われています。日本はこの条件をすべて満たしている、世界でも稀な国なのです。中でも「自然」は、観光資源として大きなポテンシャルを秘めています。日本の国立公園が、世界中の人にとって「ワクワクするような場所」になるよう、魅力づくりのための整備を進めることが必要です。

＜ 今回のおさらい ＞

日本の「多様性に満ちた自然」は
世界有数の「観光資源」。
長期滞在したくなる魅力づくりを。

デービッド・アトキンソン

1965年、イギリス生まれ。オックスフォード大学「日本学」専攻。1992年にゴールドマン・サックス入社。2009年、国宝・重要文化財の補修を手掛ける小西美術工藝社に入社、取締役に就任。2010年に代表取締役会長、2011年に同会長兼社長に就任し、日本の伝統文化を守りつつ、旧習の縮図である伝統文化財をめぐる行政や業界の改革への提言を続けている。

たいへんよくできました

challenge!

わたしたちの eco宣言

2030年度までに、温室効果ガス26%削減（2013年度比）という目標を掲げた日本。目標の実現には、企業やNPOなど、あらゆる主体の協力が欠かせません。ここでは、さまざまな企業・NPO・学校等が描く未来と、それを実現するための取り組みを紹介します。

FROM : INSTITUTE

一般財団法人 日本気象協会

私たちは、

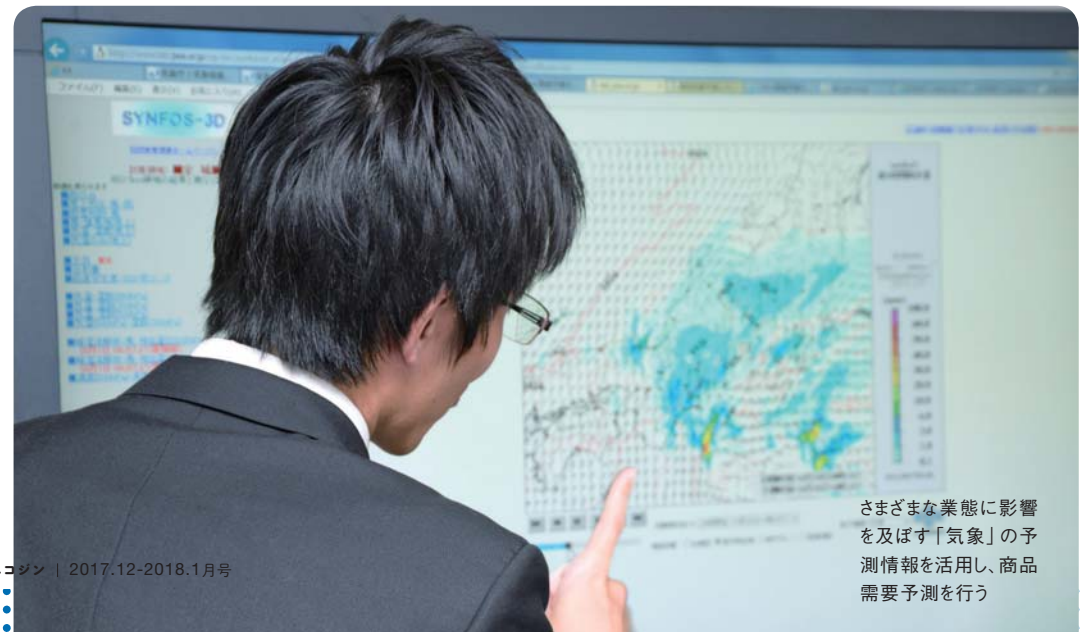
天気予報による

「省エネ物流」の実現

を目指します！

一般財団法人 日本気象協会
商品需要予測プロジェクト 技師
吉開（よしかい） 朋弘さん

天気予報専門メディア「tenki.jp」などを運営する日本気象協会。2014年から、商品の製造・流通・販売を効率化するために気象データを活かすプロジェクトに乗り出している。気象情報やPOSデータなどのビッグデータを解析し、食品ロスや不要に発生するCO_2の削減を目指すという取り組みだ。



さまざまな業態に影響を及ぼす「気象」の予測情報を活用し、商品需要予測を行う

「将来を予測する手段」として気象を経済に活かす

日本気象協会では、2014年から「天気予報で物流を変える取り組み」を行ってきた。現在、「商品需要予測プロジェクト」を担当している吉開朋弘さんは、その狙いについてこう語る。

「気象予測の精度は、この15年で30%も向上しています。一方、世界の全産業の3分の1は、何らかの形で気象リスクを抱えていると言われています。そこで気象という『将来を物理的に予測する有効な手段』を経済に活かせないか、と考えたのです」

2015年度の実証実験では、プロジェクト参加企業の相模屋食料（株）と協同で豆腐の需要量を予測した。当日から4日後までの天気・気温から需要量を予測する「よせ豆腐指数」を独自に算出。予測に基づいて工場のオペレーションを変更したことで、導入前と比べて「需要予測の誤差を30%削減」を実現した。

記者発表会で取り組みについて説明

商品需要予測の情報提供サービスについての記者発表会の様子。「物流」を変えるため、1社1社の賛同を呼びかけて、参画する企業を増やしていく

「気象」を軸に、企業・業界どうしをつなげる役割を担う

2017年からは、この「商品需要予測コンサルティングサービス」を事業化。気象予測データとPOSデータ（販売データ）などのビッグデータをもとに、人工知能を用いた解析を加えることで、顧客である企業・団体の課題にリアルタイムで応える商品需要予測を提供している。

さらに、「天気予報で物流を変える取り組み」に参画している企業であることを示す「eco×ロジ」マークを制定し、参画企業の拡大を目指している。

吉開さんは、「メーカーと卸売業者、小売店が気象情報を用いて連携することができれば、サプライチェーンのさらなる効率化が期待できます。今後は気象データを軸として、企業どうし、業界どうしをつなげる“ハブ”の役割を、私たちが担っていきたいですね」と意気込みを語った。

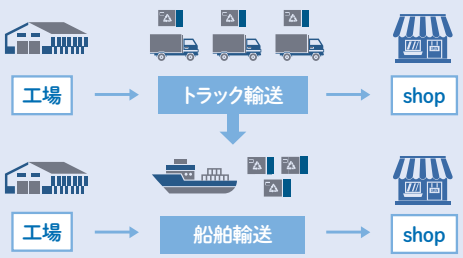
「eco×ロジ」マークがスタート

eco×ロジ

「天気予報で物流を変える取り組み」に賛同している企業・団体が、自社商品などに表示し「商品需要予測情報をもとに生産、配送、在庫管理などを行っている」企業であることを示すマーク

プチeco宣言

「モーダルシフト」を推進し、CO_2排出量の削減に貢献



環境負荷低減・人材コスト減

ペットボトルコーヒー輸送（ネスレ日本）の事例。海外の気象機関のデータをもとに、2週間先までの気象予測を作成。暑くなることが予想されるときには事前に多めに配送するといった工夫によって、トラック輸送から海上輸送へのモーダルシフトを支援。結果として年間54%のCO_2削減に貢献した。

\ LET'S ENJOY NATIONAL PARK! /

国立公園まんきつ旅

Vol.04

2020年までに訪日外国人の利用者を1,000万人に増やすことを目標にした「国立公園満喫プロジェクト」。その中でも、特徴的な取り組みを行う国立公園の楽しみ方・魅力を現地レンジャーが紹介します。

今回の国立公園は…

十和田八幡平国立公園

本州北部の山岳地帯にあり、原生林に囲まれた十和田湖や息づく火山、歴史ある湯治場などが魅力の国立公園です。

わたしがご案内します

十和田八幡平国立公園　レンジャー

安藤 巖乙さん

※レンジャーとは、国立公園の管理や生態系の保全などを行う環境省の職員。

十和田八幡平国立公園

3つの楽しみ方

1. 手付かずの雪原を滑るバックカントリースキー

八甲田山

さらさらのパウダースノーを誇る八甲田山は、外国人にも人気の高いスノースポーツの拠点。人工的につくられたゲレンデではなく、自然のままの雪原や林の中などを滑るバックカントリースキーも楽しめ、雄大な景観を満喫できます。ロープウェーが整備されているのでアクセスが容易なのも魅力。冬期は八甲田山のほか、八幡平などでもバックカントリースキーツアーが催されています。

乳頭温泉郷 鶴の湯温泉（提供＝秋田県）

2. 雄大な自然に湧く良質な温泉

乳頭温泉郷など

日本有数の火山地域のため、多くの良質な温泉が湧出しています。硫黄泉を中心に、“ラムネの湯”と呼ばれる炭酸泉など泉質もさまざまで、温泉地がそのまま登山基地になっている場所も。

3. 東北の山岳信仰を継ぐ十和田湖畔の霊場

十和田神社

かつて恐山とともに「南部藩の二大霊場」とされた十和田湖。東北地方に色濃く残る山岳信仰の象徴で、十和田山青龍大権現を祀っています。湖畔の修験窟などで修験道の痕跡を見ることができます。

INSTAGRAM GALLERY

@nationalpark-japan | from 十和田八幡平国立公園

パークレンジャーが国立公園の魅力をインスタグラムで発信しています。
右記のQRコードよりアクセスできますので、ぜひチェックしてみてください。

苔や新緑が輝く春の奥入瀬渓流

支流からの雪解け水を集め、原生林のU字谷を流れる奥入瀬渓流。その美しい景観のなかでも、特に印象的な景勝地が「阿修羅の流れ」です。キラキラ輝く新緑と、苔生した岩々の合間を流れる美しい水に見とれます。

八幡平の雲上に現るドラゴンアイ

火山帯独特の神秘的な自然の風景が広がる八幡平。5月下旬から6月上旬、春の到来とともに、その頂上付近の鏡沼の雪が解け始め、まるで“竜の目”のように見えます。駐車場から歩いて10分で到達できます。

桜と雪解けの岩手山

十和田八幡平国立公園の南西部に裾野を広げる、岩手県の最高峰、標高2,038mの「岩手山」。歴史上5回の噴火によって形成された山は見る方向によりさまざまな表情を見せます。桜とのコントラストも見事。

神秘的な十和田湖カヌー

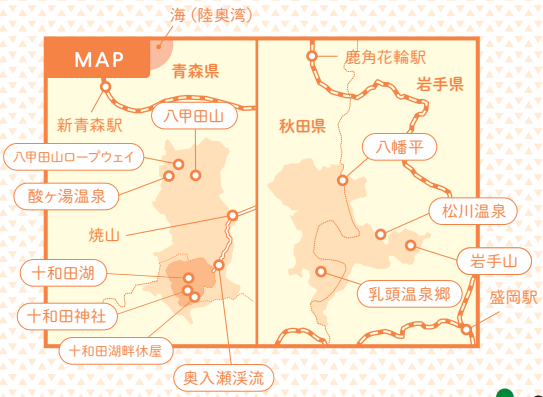
約20万年前に始まった火山活動から、幾度となく噴火を繰り返し形成された多重カルデラ湖の十和田湖。大海原のような湖面と空に抱かれてカヌーをゆっくり進めれば、この景観を生んだ壮大な自然のドラマを感じられます。

COURSE

コース1
JR新青森駅 →〔JRバス東北(約1時間)〕→ 八甲田ロープウェー →〔JRバス東北(約10分)〕→ 酸ヶ湯温泉 →〔JRバス東北(約1時間)〕→ 焼山(奥入瀬渓流) →〔JRバス東北(約45分)〕→ 十和田湖畔休屋

コース2
JR盛岡駅 →〔八幡平自然散策バス(約1時間20分)※1〕→ 松川温泉 →〔八幡平自然散策バス(約30分)※1〕→ 八幡平山頂 →〔十和田タクシー八郎太郎号※2(約1時間30分)〕→ JR鹿角花輪駅前

※1 季節運行　※2　冬期運休、土日限定、前日までに要予約。八郎太郎号は鹿角花輪駅前より十和田湖畔休屋まで運行(所要約1時間)



地球に優しいのはどっち

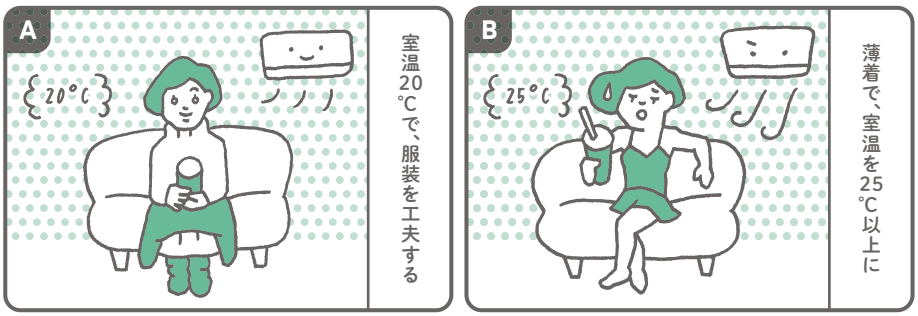
COOL CHOICE! / BAD CHOICE!

地球温暖化を防ぐためには、国民一人ひとりが、日々の生活の中でCO_2の排出を減らすような賢い選択（COOL CHOICE）をすることが重要です。何が賢い選択なのかを、クイズ形式で学んでみましょう。

今回のテーマ … ウォームビズ

イラスト／鈴木麻子

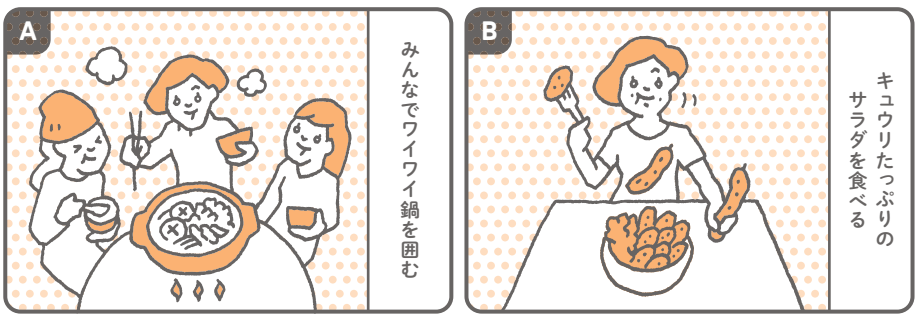
問題 01. 冬の過ごし方でCOOL（賢い）のは？



Aが COOL CHOICE!

「ウォームビズ」が推奨するのは、暖房時の室温を20℃（目安）で快適に過ごす冬のライフスタイル。服装のひと工夫で、省エネかつ温かい生活を送ることができます。太い血管のある首・手首・足首という“3つの首”を中心に温めることで、効率よく全身を温めることができます。

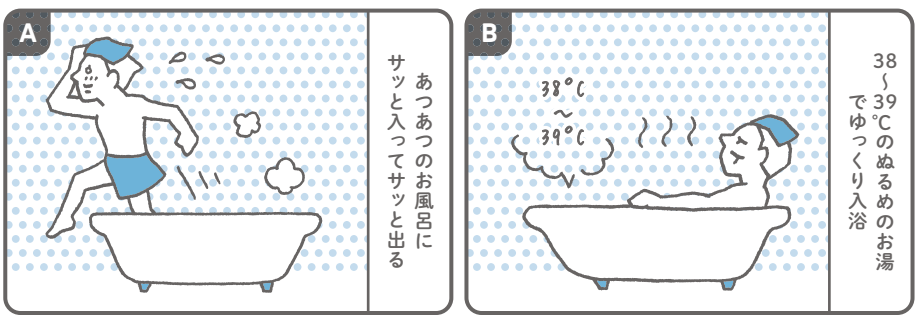
問題 02. 体を温めるために最適な食事は？



Aが COOL CHOICE!

夏野菜に体温を下げる効果があるように、寒い季節にぴったりの食事もあります。その代表格が、冬の風物詩である鍋。ただ単に温かい食べ物であるというだけでなく、湯気の加湿効果で体感温度も上がり、みんなが一つの部屋に集まることで他の部屋のエネルギーも節約できます。

問題 03. 体の温まる入浴法は？



Bが COOL CHOICE!

入浴の時も、少しの心掛けで体を芯から温めることができます。20分ほど時間をかけ、38〜39℃のぬるめのお湯に半身浴すると体もポカポカ、ぬるめのお湯を少なく沸かすので省エネにも。さらにゆず湯やしょうが湯、大根湯にすると血行促進など、より高い効果が表れます。

COOL CHOICE 賢い選択

COOL CHOICE ｜で検索

「ウォームビズ」について
→ https://ondankataisaku.env.go.jp/coolchoice/warmbiz/

今号の『エコジン』はいかがでしたか。今後の誌面づくりの参考にさせていただきますので、アンケートにご協力ください。

エコジン・アンケート → https://ecojin.env.go.jp/eco/

バックナンバーは、国立国会図書館HPでもご覧頂けます。
→ http://www.ndl.go.jp

この雑誌の記事内容の転載については、無料の雑誌など非商業目的とする場合は転載が可能です。 詳細はお問い合わせ先までご連絡ください。 なお、転載する場合には出典を明示してください。 参考に掲載された刊行物などを1部お送りください。
● お問い合わせ先：株式会社文化工房『エコジン』編集部／〒106-0032 東京都港区六本木5-10-31／電話03-5770-7100FAX03-5770-7133